

令和3年度評価結果の反映状況

評価結果	業務運営の改善への反映状況	備考 業務実績報告書 項目別実績番号
<p>1. 中期目標で示した、各病院における病床稼働率の目標値を達成するため、病床の適正管理に努められたい。</p>	<p>令和4年度は、各病院ともに依然 SARS-CoV-2(『新型コロナウイルス』という。)感染症の影響により感染症拡大以前と比べると病床稼働率については低い水準が続いている</p> <p>総合病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により、病棟の一部を感染症専門病棟として運用した。その結果、9月末時点における一般病床稼働率は82.2%となり、目標値(90%以上)を下回っている。</p> <p>こころの医療センターでは、新型コロナウイルス感染症患者受入のために個室病床を確保している中で、自傷他害の可能性のある重症患者等4人室での入院が困難な患者数に対して個室病床の運用が困難となっていることもあり、令和4年度も病床稼働率が78.4%と前年度実績及び目標値(85.0%以上)を下回っている。</p> <p>こども病院では、患者数が増加に転じていること、令和2年度に本格稼働した入退院支援センターを活用して効率的な病床稼働を目指しており、令和4年度は76.4%と、前年度と同水準で推移している(目標値:75%以上)。</p> <p>今後、各病院とも院内感染対策を取りつつ、近隣医療機関と連携して紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図っていく。</p>	<p>39、49、60 各病院</p>
<p>2. こころの医療センターにおいては、デイケアの新規利用者増加に取り組まれたたい。</p>	<p>令和4年度のデイケアの実績は9月末現在で650件となっている。</p> <p>4月から5月にかけては、新型コロナウイルスの新たな変異株の流行を受けてデイケア活動を全面停止しており、6月からデイケア活動は昼食を跨がないショートケアのみ再開しているものの、最大10人まででの実施と活動を縮小していることもあって患者数は増加していない。再開後を見据えてコロナ下でも実施可能な活動に取り組み、利用患者との繋がり維持に努めている。</p> <p>今後も、訪問時の感染症対策に配慮しながら、積極的な支援を実施していく。</p>	<p>17 こころ</p>

<p>3. こども病院におけるラーニングセンターについては、院内研修の集約化による研修環境改善に向けて引き続き検討されたい。</p>	<p>令和2年度以降、北館5階病棟改修工事中の備品置場や新型コロナ対策物品の倉庫等に利用し、従来のラーニングセンターが使用できないことから、令和3年度以降の院内研修は、講義を会議室、シミュレーションを空病床等で実施している。</p> <p>ラーニングセンターの再開に向けて、令和3年度からワーキンググループを開催し、令和4年度はこれまでに4回実施した。その結果、L棟3階大会議室をラーニングセンターとして改めて整備することが決定した(令和5年度整備予定)。</p> <p>改善後のL棟3階大会議室にはシミュレーションに使用する機材を一括管理する実技研修用倉庫を整備し、各病棟での様々な診療を想定した研修を可能にする。また、新たにオンライン配信機能を整備することにより、高度な研修内容を広く院外に発信し、地域医療に貢献する。</p>	<p>67 こども</p>
--	---	-------------------